



【ウクライナと連帯して】

ウクライナのサレジアン・シスターズの3つの修道共同体からのニュースと、世界中の教育共同体からの連帯と親密さの表明についての報告



ローマ(イタリア):サレジアン・シスターズ総長 マードレ キアラ・カツオーラは、今の状況と、人々を支援するという自分たちの責務に関して、キエフ、リヴィウ、オデッサの3つの修道共同体のシスターたちと連絡を取り合っています。

リヴィウの修道院から

シスターたちは無事で、修道院は攻撃から身を守るために逃げる多くの人々、特に小さな子どもをもつ母親を受け入れるために開かれていると伝えてきています。そして、彼女たちが避難所にいるときは、人々と一緒にロザリオの祈

りを唱えながらこう言っています。「これ(祈り)が私たちの武器です!私たちは祈りの中で、私たちを守るために命を掛けてくださっている人々に感謝を捧げ、また、私たちにまた新たな一日を与えてくださった神に感謝を捧げています」と。

キエフとオデッサの修道院から

ここでもシスターたちは、具体的な助けと励ましを相互に交換することによって、人々と連帯しています。と報告がありました。

ポーランドから

サレジアン・シスターズのいくつかの修道共同体は、教会やカトリックの種々の協会と協力して、安全を確保するために家族とともに国境を越えてくるおびたしい数の人々を受け入れ、支援しています。

スロバキアから

スロバキア管区の管区長 Sr.モニカ・スカロヴァは、避難民を修道院に受け入れ、また国境に赴き、通訳や具体的な支援を受けるための手助けをしていますとシスターたちの活動を伝えてくれました。彼女たちは、特に長い待ち時間のために疲れ果てた子どもたちのために奉仕しています。また、スロバキアのサレジオ会員たちと一緒に、ウクライナのサレジアン・シスターズとサレジオ会のための物質的な支援を募るイニシアチブで団結しています。そして彼らは、教皇フランシスコの2022年3月2日の断食の祈りの要請に加えて、平和のための祈りの鎖をつないでいくために、24時間の聖体礼拝を企画しています。と。

教皇フランシスコも

2月27日(日)のアンジェラスでの祈りで、次のように述べられました。

「ここ数日、わたしたちは悲劇的な出来事に衝撃を受けています。それは戦争です。わたしたちはこの戦争への道をたどらないようにと何度も祈りました。**このことについて話し続けましょう。神にもっと強く祈り求めましょう。**

こうしたことから、**3月2日の「灰の水曜日」**に行われる**ウクライナの平和のための祈りと断食の日への参加を改めて呼びかけたい**と思います。ウクライナの人々の苦しみに寄り添い、皆が兄弟であることを感じ、戦争の終結を神に祈る日です。

戦争をする者は、人間性を忘れます。 人々の側に立たず、一人ひとりの命を見つめず、一部の利害と権力しか考えません。

武器の悪魔的でよこしまな論理に頼ることは、神の御旨から最も遠いことです。また、それは平和を望む一般市民から遠ざかることです。**あらゆる紛争において、戦争の狂気の代償を身をもって払う真の犠牲者は普通の市民たちです。**

今この時、**避難先を探すお年寄りたちや、子どもを抱いて逃げる母親たち**を思います。これらの兄弟姉妹たちのために、緊急に人道回廊を開き、避難者を受け入れなければなりません。

ウクライナで起きていることに心を引き裂かれると共に、イエメン、シリア、エチオピアなど世界の他の地域で起きている戦争をも忘れることはできません。

繰り返します。武器を置いてください。 神は、暴力を行使する者とはなく、平和を作る人々と共におられます。

イタリアの憲法が唱えるように、平和を愛する人は「他の人民の平和を脅かす方法、国際的係争の解決手段としての戦争を認めない」からです。」と。



マードレ キアラは、これまでに表明された親密さに感謝しつつ、すべての教育共同体が、**ウクライナのみではなく、サレジアン・シスターズが人々と恐れと苦しみを共有している紛争の中にある世界中のすべての地域のために、一つの心で執拗に平和の賜物を願い求める祈りと連帯のイニシアチブのうちに、一致し続けるよう**勧めています。

サレジアン・シスターズは、危険と困難の状況にあるウクライナの人々に具体的な支援を提供するために、**皆様方の寛大さと連帯の心を期待しています**。サレジアン・シスターズ本部のウェブサイトウクライナの緊急支援に示されている方法で、**ウクライナの緊急支援**の項をクリックし、提示されるフォームに従って、寄付の申し出を送ることができます。

